

## 老齢動物の病気について

前号に続いて「僧帽弁閉鎖不全症（MR）の疑いがあると診断された時に、飼い主として何を考え、何をすればよいのか？」です。心臓病のワンちゃんを飼育する上で「安静時の心拍数と呼吸数を把握しておくことが大切である」ということをお話ししました。

「測り方のコツ」ですが、通常これらは1分間の数で比較します。しかし、時計を見ながら1分間測り続けるのは大変です。15秒測って4倍すると簡単です。また、呼吸数は胸の動きを見て測ってもよいですが、心拍数は直接胸に耳を当てるか内股で脈（これは正確には脈拍数）を取らねばなりません。正常な心臓では安静時に胸で拍動を触知するのは困難です。お薦めは聴診器を用意しておくことです。今やAmazonなどで数千円出せば、拍数を数えるのなら十分なものを購入できます。また、呼吸音、心音共に愛犬のいつ

もの音を知っていると、音の変化に早く気付いて悪化時の早期受診につながります。これらは、「飼い主さんが自分でできる判断項目」です。「健康な時から習慣的に測定」してみてください。

## MRのステージ分類

MRは検査の所見や病状による進行具合を獣医師が共有するためにACVIM（全米獣医内科学会）によって分類されたステージを使います。

## ● Stage A：好発犬種

キャバリア、チワワなど元々この病気になりやすい犬種は、症状がなく検査データが正常でも、生まれた時からStage Aに分類されます。

## ● Stage B1：心雑音のみ有り

聴診で心雑音が聴取されます。エコー検査で僧帽弁

## ② 犬の僧帽弁閉鎖不全症

## 3. 呼吸数と心拍数測定のコツ、MRのステージ分類と診断



文・写真 中西章男  
text & photo by Akio Nakanishi



逆流や弁の変性を認めますが、心拡大や評価数値の異常はなく、症状はありません。

## ● Stage B2：心拡大と軽い症状の発現

心雑音が大きく明確になる。検査で心拡大および評価数値の異常を認める。症状はあったとしても軽度で、疲れやすい、運動時など回復に時間がかかる、咳などの症状が出てきます。

## ● Stage C：心拡大と症状が進行

心臓病の症状が進行して慢性化。検査でも僧帽弁逆流、心拡大、評価数値の異常が進行する。肺のうっ血

所見を認める。一度肺水腫を発症した症例は症状が改善してもStage Cとする。

## ● Stage D：重度のうっ血性心不全

病状が進行し慢性的に肺水腫が存在し薬を飲んでも症状のコントロールが困難となる。呼吸困難、失神、食欲不振などの致死的な症状が続く。

「MRの進行度合い」は上記のような「ステージ(Stage)」で表します。次号以降、診断の方法と治療についてお話しします。



## Profile

獣医師・獣医学博士。1959年生。1986年日本獣医畜産大学（現日本獣医生命科学大学）大学院博士課程卒。大学ではフィラリア症の血行動態、腫瘍および外科の免疫について研究。1987年東京都杉並区で「阿佐谷ペットクリニック」を開院。小動物の総合診療医として犬猫のみならずウサギ、小鳥、ハムスター、モルモットなど数々の動物を診療してきた。趣味：ゴルフ、モータースポーツ、機械いじり、動物たちとの戯れ。著書：『車イスに乗ったチロ』集英社